

群 教 セ	G11 - 03
	平28.261集
	学級活動

# 生き生きと活動し、他者と進んで 関わろうとする児童の育成

—学級全員で取り組む事前活動の工夫を通して—

特別研修員 町田 みわ子

## I 研究テーマ設定の理由

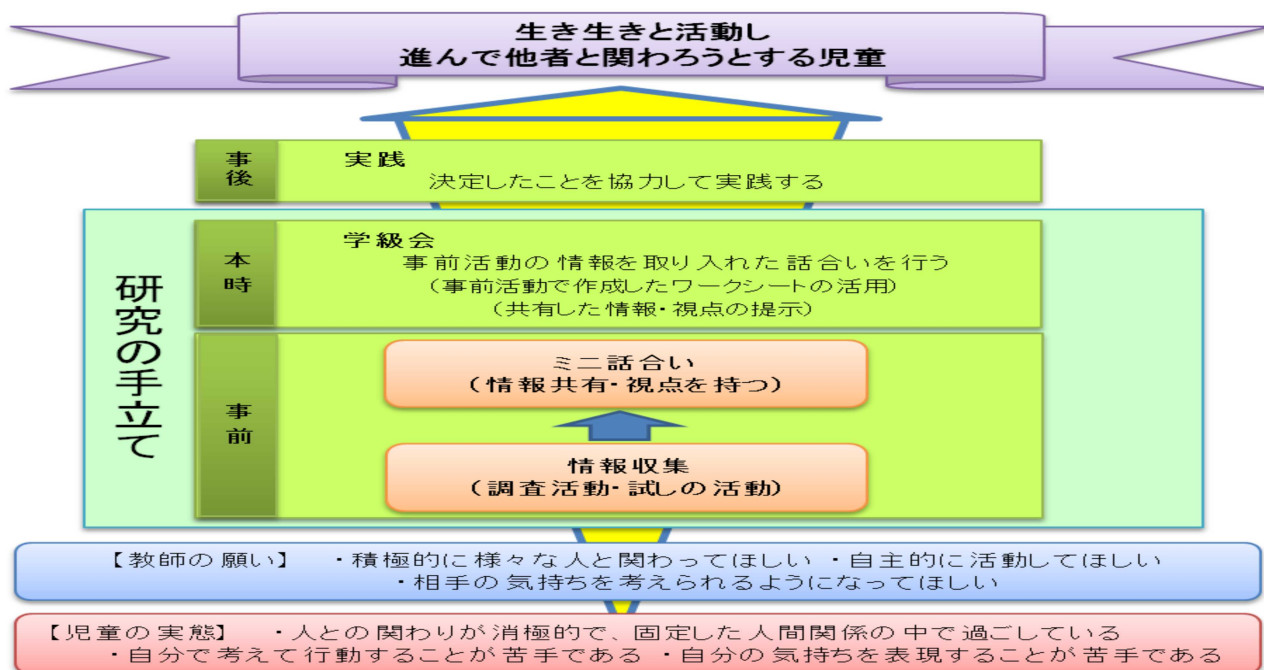
学習指導要領では、より良い生活づくりや人間関係づくり、日常生活や学習への適応などを内容とする特別活動の充実が求められている。それは、特別活動における各活動・学校行事での体験が、児童相互がより良い人間関係を築く力や自己有用感を育むことにつながるからである。

本校は、豊かな自然に囲まれた地域にある。その環境を生かし、栽培活動や伝統食作りなどを行っている。学校区が広範囲のため、近隣に友達が住んでいない地域もあり、学校外では、気軽に友達と遊ぶ機会をつくりにくい環境にある。また、転出はあるものの転入はほとんどないため、入学から卒業まで、同じメンバーで学校生活を送る。気心が知れていて安心できる良さもある反面、人間関係が固定化し、自分から進んで人と関わろうとする力に欠けている。また、リーダー的存在が固定化し、新たな面を表現することに消極的になってしまう。児童は素直であり、係活動、奉仕的活動など一生懸命に取り組むが、自分たちで考えて行動することが苦手であり、「何かを作り上げたい。何かをしてみたい」といった自主性や主体性に欠けている。これらの実態から本校の児童は、自分たちの手で作り上げていく活動や、学年を超えて人と関わる活動を通して、楽しさや達成感、満足感を感じていくことが必要である。「楽しいな、おもしろいな、嬉しいな」という気持ちが、「頑張ろう」という活動の原動力となり、児童が、「また、やってみたいな」と意欲的・主体的に取り組む生き生きとした姿へとつながっていくと考える。

そこで、他者との関わりを持ちながら自分たちの手で楽しく作り上げる経験を通して、生き生きと活動し、進んで他者と関わろうとする児童が育成できると考え、上記のとおりテーマを設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

児童に、他者を意識させながら、自発的に活動させるために二つの手立てを行う。

**手立て1 学級全員による事前活動（実態調査・聞き取り調査・試しの活動・ミニ話合い）**

**手立て2 事前活動の情報を取り入れた学級会**

手立て1の事前活動として行う情報収集（実態調査・聞き取り調査）は、個人の考えをまとめたり、グループで話し合ったりする時の情報となり、本時の話合い活動を充実させることができる。考えを出し合う場面では、児童は、これまでの経験や体験を基に考えを出すのが、基になる情報が少ない児童もいる。そこで、調査活動を行い、児童がより多くの情報を得ることで、その情報の中から取捨選択することができるようにする。調査活動によって得た情報の中には、体験したことのないものもあり、児童の想像と異なる場合もある。そういった場合には、事前に自分たちが体験をする試しの活動を行うことも有効である。情報収集で行う活動は、取り上げる題材に適した活動を選択して行うことで、より充実した話合い活動へとつながる。

情報収集後に行うミニ話合いは、集めた情報を学級全体で共有したり、その情報を基に、本時の話合い活動につながる視点を持ったりするものである。情報を共有することで、新たな情報を知ることができる。また、学級で共通する視点を持つことで、児童はその視点を意識しながら話合いを進めることができ、深まりのある話合いができる。

手立て2の学級会は、自発的に活動しようとする意欲や態度、他者意識を高めるための活動である。事前活動の情報を基に、全員が自分の意見を持って話合いに参加することで、参加意識を高めることができる。また、事前活動の情報を取り入れた話合い活動を進めることによって、関わる相手を意識した話合いをすることができる。そして、その意識の高まりは、事後活動の充実へとつながる。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- 児童が作り上げる活動を設定し、全員で事前活動（調査・試しの活動）に取り組んだことによって、児童の意欲が高まり、「A先生に聞きに行こう」「話合いは、いつですか」など、次の活動を楽しみにしている姿が見られた。ミニ話合いで、話合いの視点を持たせたことにより、本時では、「1、2年生には・・・」など、活動の対象となる下級生のことを意識した話合いをすることができた。また、事前活動の情報を基により良い計画へと話し合うことができた。
- 事後活動では、「もう準備していいですか」「次はいつですか」など、意欲的に活動に取り組む姿が見られた。活動中は、優しく話しかけていたり、辛抱強く対応したりと、下級生のことを考えて接する様子が見られた。
- 日常の様子では、先生方や異学年の子と話している様子をよく見かけるようになった。児童も「話し掛けやすくなった」「話し掛けてくれるようになった」と感じている。

### 2 課題

- 児童が人との関わりを楽しんでいると感じ、活動を通して達成感や満足感を味わったりすることができる活動を選定する必要がある。また、実施する題材には、どのような事前活動が適しているか吟味する必要がある。
- より充実した活動にするためには、事前活動が重要である。学級全員で事前活動に取り組むための時間の確保が課題である。

## 実践例

### 1 議題名 「校内かるた大会に向けて練習会を開こう」（第3学年・2学期）

#### 2 本議題について

本議題のめあては、「1、2年生を上毛かるた名人にするための練習方法を考えよう」である。児童は、学級の一員であると同時に、学校の一員でもある。本校のような小規模校では、学級という小さな集団だけでなく、学年を超えた大きな集団の中で、役割を果たす活動、下級生の世話をする活動を通して、主体性や人との関わり方を学ぶことに大きな価値がある。また、自分たちの力でやり遂げたという達成感や満足感を味わうこと、周りの友達から認めてもらえた、下級生に喜んでてもらえたという経験を積むことが自己肯定感を高めることにつながり、「また、やってみたい。次は、こうやってみよう」という主体性を育むと考えた。この活動を通して人との関わり方を学び、人と関わることの楽しさを感じ、人間関係を広げていくきっかけ作りをねらいとしている。

以上のような考えから、本議題では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	1、2年生のことを考えながら、校内かるた大会へ向けて練習会を開くことができる。	
評価 規 準	関心・意欲・態度	学級の生活上の問題に関心を持ち、他の児童と協力して意欲的に集団活動に取り組もうとしている。
	思考・判断・実践	楽しい学級生活にするために話し合い、自己の役割や集団としてのより良い方法などについて考え、判断し、協力し合って実践している。
	知識・理解	みんなで楽しい学級生活にすることの大切さや、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の計画的な進め方などについて理解している。
過程	時間	主な学習活動
事前 の 活動	問題の発見 (学活)	・3学期に校内かるた大会があるが、1、2年生の中には、上毛かるたのルールを知らない子がいることを知る。
	議題の選定 (学活)	・問題解決へ向けて、話し合う議題を選定し、話し合いへ向けての事前活動の準備を学級全員で行う。
	問題の意識化 (学級の時間)	・1、2年生の実態調査や教えるときのポイントについて、先生に聞き取り調査をする。
	(休み時間)	・どんなことに気を付けて教えればよいかミニ話し合いを行う。
本時 の 活動	出し合う	・議題「校内かるた大会に向けて練習会を開こう」、決定事項（時間・場所）名人ポイント（練習方法・関わり方）を確認する。 ・事前調査（実態調査、聞き取り調査）で作成したシートを活用しながら、自分の考えをまとめる。
	比べ合う	・グループに分かれ、自分の考えを発表する。 ・グループごとに練習計画書を作る。
	まとめる	・グループの練習計画を発表し全体で共有する。
事後 の活動	実践	・グループで役割を決め実践する。 ・練習会をふり返る。

#### 3 本時及び具体化した手立てについて

本議題は、3学期に校内かるた大会が行われるが、「上毛かるたのルールを知らない1、2年生がいる」という問題を解決するために設定したものである。低学年ブロックの中心となる3年生が、上級生という立場を自覚し、下級生のことを考えながら立案から実践までやり遂げる経験を通して、進んで低学年の児童と関わろうとする態度を育成するために次のような手立てを具体化した。

### 手立て1 学級全員による事前活動（実態調査・聞き取り調査・ミニ話合い）

- ①練習計画を立てるための情報として、1、2年生が、どの程度上毛かるたを知っているかを調査する。
- ②先生に、上毛かるたにはどのような練習方法があるか、また、どのようなことに気を付けて教えているのか聞き取り調査をする。
- ③聞き取り調査した情報を学級で共有し、練習計画を立てる際のポイントとする。

### 手立て2 事前活動の情報を取り入れた話合い

- ・事前活動で集めた情報を基に、個人で練習計画を考え、その後、グループで話し合う。

## 4 授業の実際

### (1) 事前の活動：児童全員による事前活動（手立て1）

3年生は、1、2年生が、上毛かるたをどの程度知っているか、どのような練習方法があるかなど、教える立場になったことがないので分からない。そこで、本時の話合いでかるた練習会の計画を立てる際の情報となるように、実態調査、聞き取り調査を行った。その後、児童が集めた情報を、全体で共有する時間を設定し、大切なポイントと思うものを児童が出し合った。本題材では、そのポイントを「名人ポイント」とした。児童が、下級生との関わり方に目を向けられるように、「練習方法」「関わり方」という項目に分けて名人ポイントとしてまとめた（図1）。

#### ①実態調査



ルールや並べ方を知っているか、上毛かるたを何枚知っているか、調査を行った。「3枚しか知らない」という発言もあり、自分たちの予想と差があることを実感したようである。

#### ②聞き取り調査



先生方に、かるたの練習方法、教える時に気を付けていることを訪ねた。小さい子には、枚数を少なくして教えると良いということ聞き、そのポイントを練習計画に取り入れた児童が多かった。

#### ③名人ポイント

##### 【練習方法】

- ・繰り返し練習する
- ・枚数を少なくする
- ・図に書く

##### 【関わり方】

- ・優しくゆっくり教える（一つできたら次を教える）
- ・できなくても怒らない
- ・褒める
- ・ゆっくり話す
- ・同じ目線で話す
- ・短い言葉で話す

図1 事前活動の様子

### (2) 本時の活動：事前活動の情報を取り入れた話合い（手立て2）

事前活動で集めた情報を基に、個人で練習計画を考え、その後、グループで練習計画を話し合った（図2）。学級全員で事前活動を行ったことで、取組への意識が高まり、また、事前の実態調査、聞き取り調査の情報が児童の考えを広げる手立てとなったことで、話合いが充実し、上級生としての自覚や下級生を思う気持ちが高まった。このことは、授業後の振り返りに、児童全員が「1、2年生に名人になってほしい」「頑張りたい」というような1、2年生を思う感想や練習会へ向けての意欲を書いたことから推察できる。

#### ①個人で考える場面



個人で考える場面では、「絵札を覚えさせる」という練習方法を書いている児童が10名中6名いた。これは、「かるたは、絵を見て取っている」ということを聞き取り調査で教えてもらったからである。また、「姿勢（四つんばい）を教える」「札の取り方を教える」という考えを書いている児童もいた。児童は、これまでに、姿勢や取り方について教えてもらったことはない。これも、聞き取り調査で得た情報である。自分の考えをなかなか書けない児童も、事前調査シートを見返して考え、ワークシートに練習方法を記入することができた。全児童が、自分の考えを持って話合いに参加できた。



あるグループでは、「姿勢（四つんばい）」と「かるたの並べ方」のどちらを教えるかについて話し合っていた。「1、2年生だけでも試合ができるように」と助言すると、事前調査シートを見返し、「並べ方を知らない子がいるから並べ方を教えた方がいいよ」と事前の調査結果を基にした発言があった。また、関わり方を考えているグループでは、「分かりやすいってどういうこと?」「簡単な言葉で」というような会話があった。ミニ話合いの名人ポイント（短い言葉で）から出てきた会話ではないかと考える。

## ②グループで考える場面

### 図2 本時の活動の様子

授業後の児童の感想には、「いっぱい練習方法が出たので、そのやり方で練習会をしたいと思いました。練習会で、1、2年生に頑張ってもらいたいです」「1、2年生を名人にしたいです。頑張りたいです」といった、1、2年生のことを考えた感想や練習会へ向けての意欲が書かれていた。

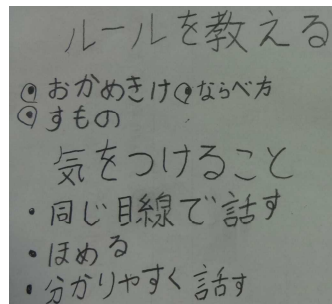
### (3) 事後の活動：かるた練習会

本時で話し合った練習計画を基に準備を行い、かるた練習会を開いた（図3）。当日の準備時間には、グループごとに練習方法の確認を行った。児童は、自らメモを作成し、自発的に取り組んでいた。練習会では、3年生の話し方が穏やかになっていた。また、1年生の目の高さにかるたを持っていたり、読み札をゆっくり繰り返し読みだしたりと、下級生を意識して練習する姿が見られた。

#### ①準備の様子



#### ②児童自ら作成したメモ



#### ③かるた練習会



図3 かるた練習会の様子

## 5 考察

事前活動では、「先生、調査は何日にしますか」「もう行ってもいいですか」と聞くなど、意欲的に取り組む様子が見られた。本時の話合い活動では、一人一人が自分の考えをワークシートに書くことができ、発言を苦手とする児童のワークシートを他の児童が見ながら話し合う様子も見られた。また、事前の調査結果を見返し、1、2年生のことを意識した話合いが行われていた。事前活動は、児童の意欲や意識を高めることに有効であり、この高まりがあることによって、本時の話合いが充実したと考える。また、事前活動の情報が、本時の話合い活動の考えを出し合う・比べ合う場面（グループで考える場面）で有効であったと考える。

事前活動の情報を取り入れた話合いでは、全員が自分の意見を持って、グループでの話合いに参加することができた。本時の感想には、全員が「名人になってほしい」「頑張ってもらいたいです」など、下級生を思う気持ちや活動への意欲的な気持ちを書いていた。練習会では、説明ではなかなか理解できない1年生の様子を見て、「自分たちでやって見せよう」と実際に見せる方法に変更したグループもあった。これは、聞き取り調査で分かった「図や絵にすると分かりやすい」ということから考え出したのではないかと考える。手立て1、2を連続して行ったことが、児童の意欲や下級生を思う意識を高めることにつながったと考える。

本題材では、児童全員の意欲や意識を高め、より充実した活動になるよう、学級全員で事前活動に取り

組んできたが、学級全員で取り組むための時間の確保が課題であった。